

経営比較分析表（令和2年度決算）

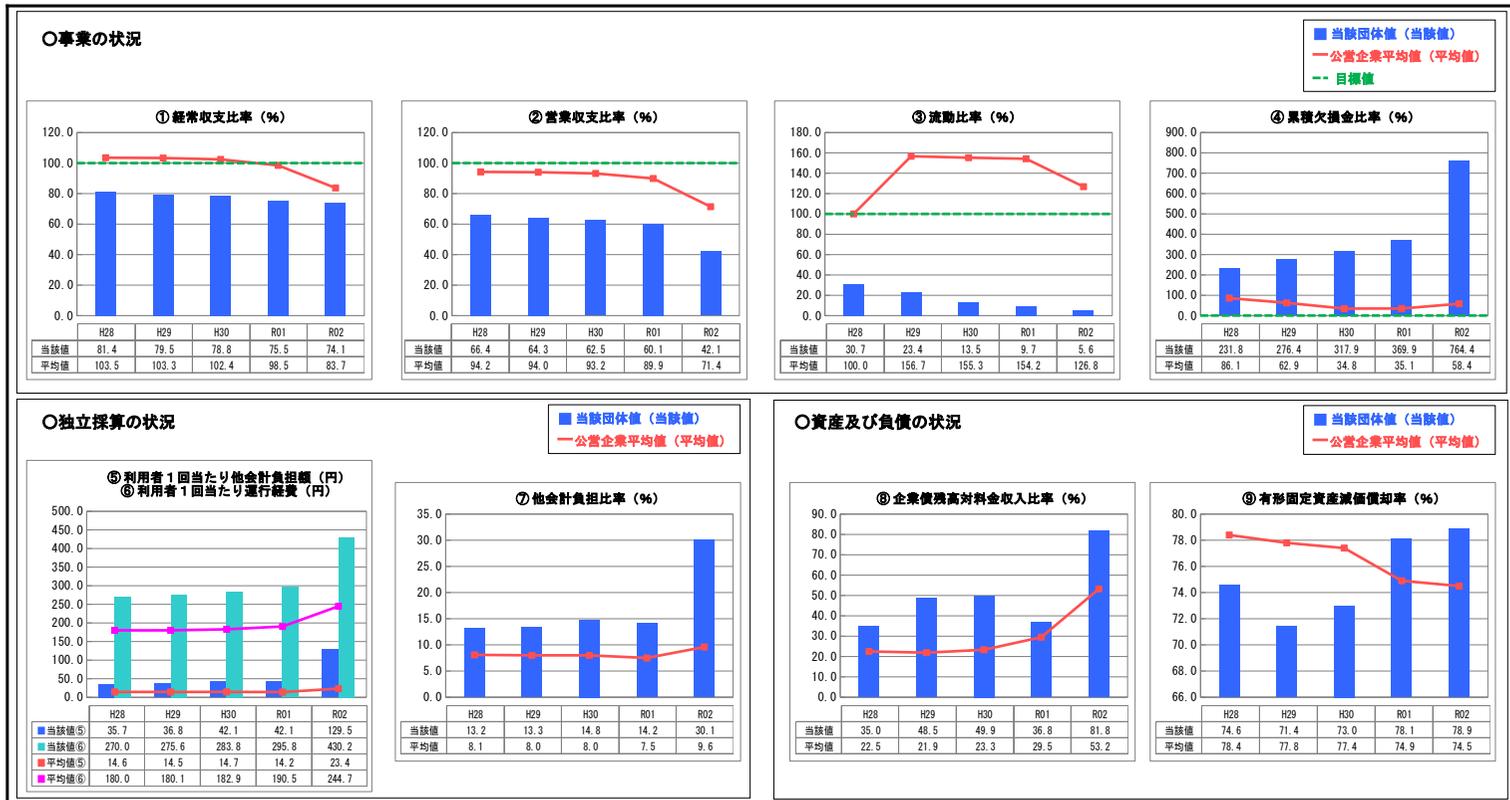
鹿児島県 鹿児島市

業務名	業種名	事業名	管理者の情報
法適用	交通事業	自動車運送事業	その他
資金不足比率（%）	営業路線（km）	年間走行キロ（千km）	在籍車両数（両）
-	183.3	4,197	153
職員数（人）	管理の委託割合（%）	民間事業者の有無	地域公共交通計画策定の有無
166	37.9	有	有

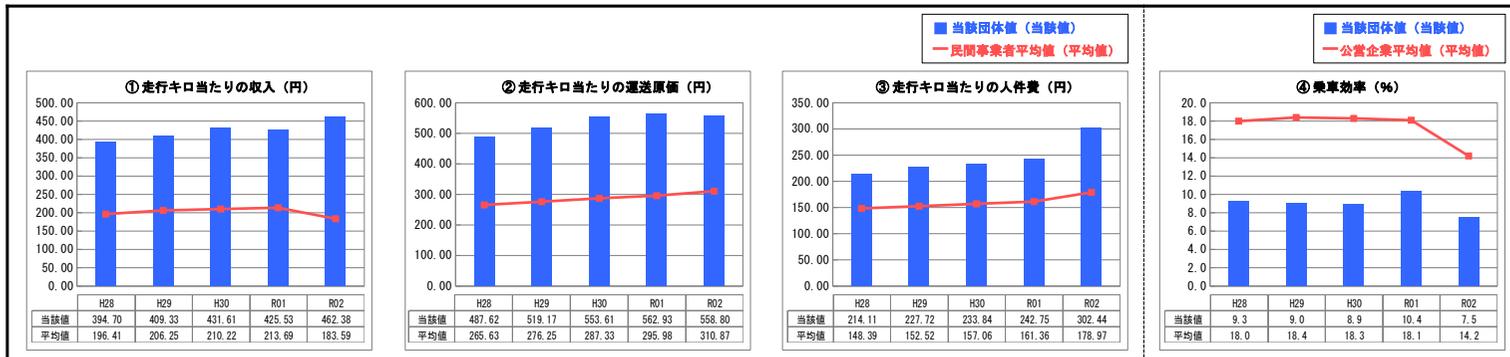
※民間事業者の有無とは、行政区域内で民間バス事業者が運行しているかどうかを指す。

	H28	H29	H30	R01	R02
年間輸送人員（千人）	10,315	10,473	10,467	10,123	5,255
他会計負担額（千円）	368,449	385,171	440,731	425,983	680,764

1. 経営の健全性



2. 経営の効率性



※民間事業者平均値は当該団体が所属する標準原価ブロックの民間平均値

分析欄

1. 経営の健全性について

○事業の状況
本市バス事業については、令和2年3月に策定した「鹿児島市交通事業経営計画」に基づき、将来にわたって持続可能な経営基盤の確立を図るため、路線の一部移譲により事業規模を縮小する自動車運送事業の抜本的見直しを推進することとし、令和2年4月1日付で16路線を民間バス事業者に移譲した。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響によるインパウンドの消滅や行動自粛に伴う利用者数の減により、運送収益が大幅に落ち込んだことから、①～④の指標値は公営企業平均値に届いていない。

○独立採算の状況

表⑥のとおり、利用者1回当たりの運行経費が前年度に比べて134.4円増加しており、新型コロナの影響による利用者数の減によるものと考えられる。⑤、⑦についても公営企業平均値を大きく上回っている。

○資産及び負債の状況

表⑧の企業債務高対料金収入比率は局舎等リニューアルにより増加し、28年度には土地の売却益で企業債を繰り上げ償還したものの、令和2年度に特別減収対策企業債により増加したため、公営企業平均値を上回っている。

表⑨の有形固定資産減価償却率はバス等の資産取得の時期により、年度ごとにはばらつきがある。27年度の局舎等リニューアルに伴い有形固定資産が増加したことなどから、ここ数年は公営企業平均値を下回っていたが、令和元年度以降はこれまで継続していたバス車両の更新がなかったことから、これまでより増加している。

2. 経営の効率性について

事業規模を縮小する自動車の抜本的見直しを進めているが、表①②のとおり、走行キロ当たりの収入がキロ当たりの運送原価を下回り、表④から乗車効率も前年度に比べ、低くなっているため、引き続き、利用状況を踏まえたダイヤ改正等に取り組む必要がある。

全体総括

自動車運送事業の規模縮小による抜本的見直しについては、令和2年度に引き続き、令和3年4月1日に市営バス路線の一部民間移譲を行うなど取組を進めている。

また、新型コロナウイルス感染症拡大によるインパウンドの消滅や行動自粛、新しい生活様式など、公共交通の利用に関する考え方が変わってきていることから、「鹿児島市交通事業経営計画」の見直しを前倒しして、新たな社会に即した事業見直し等を進めながら、減収等も踏まえた中で持続可能な経営基盤の確立を図る。